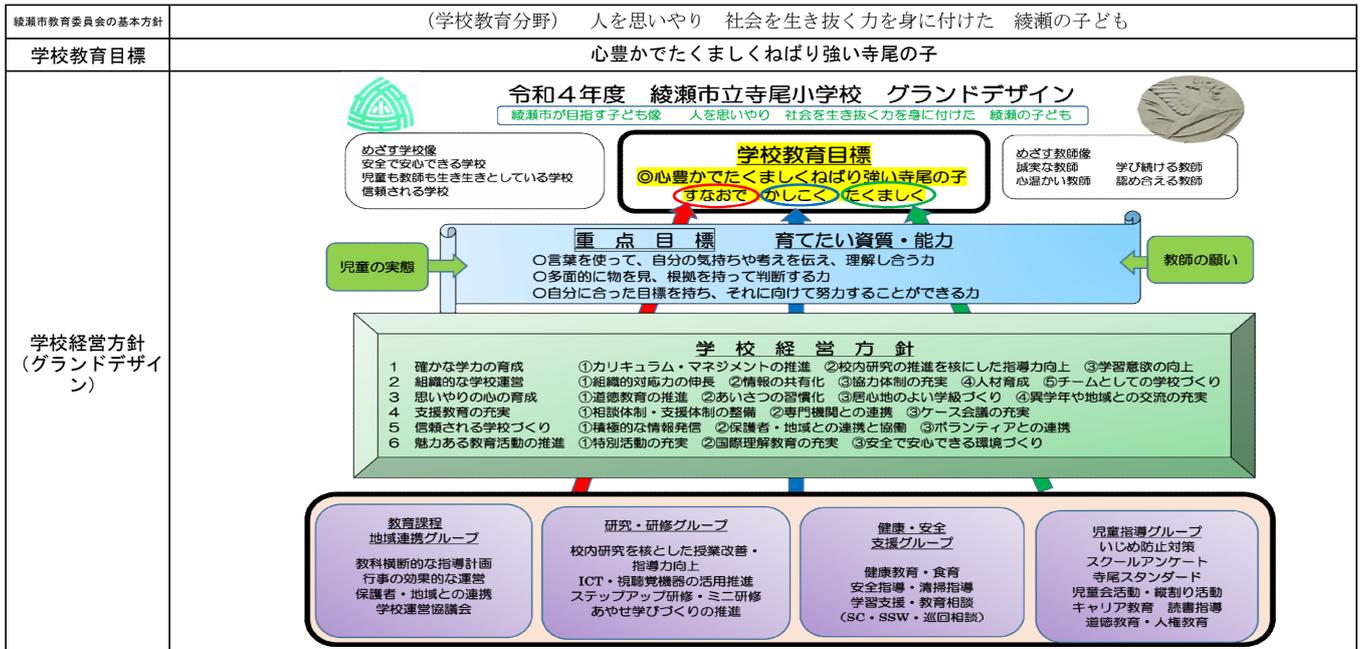


令和4年度 綾瀬市立寺尾小学校 学校関係者評価報告書



今年度の重点目標
○言葉を使って、自分の気持ちや考えを伝え、理解し合う力
○多面的に物を見、根拠を持って判断する力
○自分に合った目標を持ち、それに向けて努力することができる力

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「進んで学ぶ子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童、保護者ともに肯定的な回答がおよそ9割を占め、児童が進んで学習に取り組む姿勢が定着していることがうかがえます。また、すべての教職員が肯定的な回答をしています。校内研究や研修を通して、児童が主体的に学習に取り組むことへの理解が深まり、それが授業改善や学級・学年経営につながってきています。私たちはこの意識を保ちつつ、児童の生きる力の育成に努めます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	昨年度は縮小していた学校行事を今できる形で最大限取り組むことによって、児童にとっても保護者にとっても満足できる形となりました。これからも児童がめあてをもって主体的に活躍できる学校行事のあり方を模索しながら取り組んでいきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「すなおで思いやりのある子」を育てる指導を積極的に進めている。	毎年行われている児童会主催の「あいさつ運動」では、児童が中心となって「あいさつの大切さ」について考え、より全校児童が参加しやすいように工夫して行いました。今後も、児童があいさつすることの良さに気付けるよう、児童に積極的に働きかけていくように努めると同時に、教職員に意識を高めていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	9割以上の児童が楽しく学校生活を送っているようです。しかし、「あまり思わない」「そう思わない」児童も1割程度いることに目を向け、今後も居心地よくいられる学校を目指します。個を大切に、個に合わせた授業づくりや支援を行うように努めます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	昨年度と比べ、保護者の「そう思う」「ややそう思う」、「分からない」はほぼ同様のポイントでした。引き続きスクールアンケートや道徳教育等を通したいじめへの予防的取組を行っていくと同時に、いじめの予防や発生時の対応にも力を入れ、教職員が一つになって取り組むよう努めます。
6 保健管理	学校は、「たくましくねばり強い子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	肯定的な回答が多く見られました。昨年度同様、手洗い・マスク着用の徹底や健康観察票の記入など、新型コロナウイルス感染症対策を念頭においた取組が行われたため、健康への意識は高いと思われます。今後も、児童自身が自分の心や身体の状態について関心を持ち、健康的な生活が送れるよう、保護者と連携し、指導と支援に努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員は高い意識を持って取り組んでいることがうかがえます。日時を知らせずに実施する避難訓練や交通安全教室などの「命を守る」学習に力を入れて指導をしてきました。また、月に1回、校舎内外に危険箇所はないかを全職員で点検いたしました。これからも児童への安全指導の充実と環境整備に、しっかりと取り組んでいきます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	肯定的にとらえている教職員がほとんどであり、意識高揚と意欲がうかがえます。これからもこの姿勢を保ち、教育相談コーディネーター、養護教諭を中心とした支援体制を整え、さらによりよい支援ができるよう、努めていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	児童の実態や課題を教職員で共有し、学校教育目標の具現化を図っています。今後も、チームとしての一体感とそれを支える教職員一人ひとりが責任と自覚をもち、児童のために一つのチームとして取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	新学習指導要領の内容や本校の児童の実態をしっかりと把握し、それらに基づく指導の在り方についても研究を通して研修してきました。今年度は、横浜国立大学池田敏和教授をお招きし、算数科の指導力向上を中心に児童が学ぶことについて理解を深めました。算数科はもちろん、他教科にも学んだことを生かして授業改善ができるよう、今後も学習指導の充実を図る研修を計画的に実施していきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	設問5に対する対応と同様、教職員が個を大切に指導に努めます。また学校や教職員の指導をご理解していただけるように、取組を発信するよう心がけます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	9割以上の保護者が「そう思う・ややそう思う」と回答しています。これは学校だよりや学年だより、家庭訪問や個別面談を通じて学校の様子を知っていただいた成果かと思えます。しかし、わずかながら「分からない」と回答している保護者もいます。これからもっと理解していただけるように情報を発信していきたいと思えます。今年度から始まった学校運営協議会では委員の方々に多くの意見をいただき、来年度の方向性を決めていきたいと思えます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

- ・学習においては児童ががんばって解いてみようという意欲が芽生えてきている。
- ・学習の最後に何が身についたか、何がわかったかなどの振り返りをすることで言葉を使って自分の気持ちや考えを伝え、理解し合う力が身につけてきている。
- ・行事を通じて児童を育てていることができている。特に図工展は体育館に作品を一堂に介して行っていたので美術館のようでよかった。
- ・「すなおで思いやりのある子」を育てている割には言葉遣いがよくない児童がいる。一番大切なのは思いやりのあるやさしい子を育てることだと思う。
- ・友達と仲良くする豊かな子どもに育ってほしい。
- ・先生たちは職務に必要な知識や技能を身につけようとしていることは分かるが表面では見えない外国にルーツのある児童にも目を向けてほしい。先生たちは小学校を卒業すればそれで終わりかも知れないが児童からすると中学を卒業すると受験がある。外国にルーツのある子どもからすると高校受験はハードルが高い。そのことを先生たちに知ってもらえるような研修があるとよい。
- ・今後は地域が学校をよりよくしていく視点で議題を明確にして話し合いを深めていきたい。